

2024(令和6)年9月2日更新 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



OKAZAKI PARK STAGE 2024

@ロームシアター京都 ローム・スクエア(屋外) / 無料・申込不要

日程: 2024年9月28日(土)~10月27日(日)

ローム・スクエアライブ

ローム・スクエアライブ ~オープンコールステージ~

ちっちゃい焚き火(薪ストーブ)を囲んで語らう会

詳細・最新情報は[こちら](#)

< 関連企画 >

ニュー・ブランシュ KYOTO 2024

KYOTO EXPERIMENT 2024 ミーティングポイント

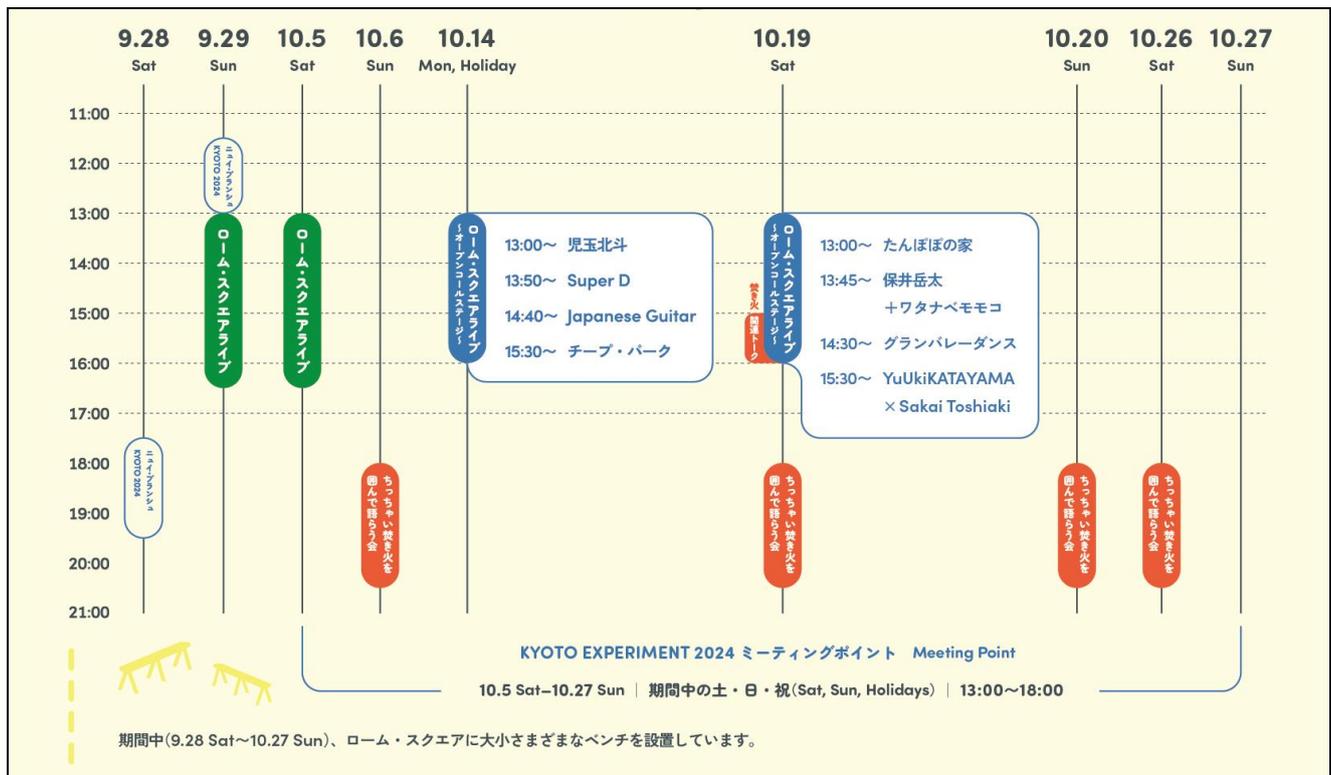
企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市
令和6年度文化庁文化資源活用推進事業 協賛 | 京都信用金庫

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 加藤、儀三武、寺田
電話: 075-771-6051(9:00~17:00) FAX: 075-746-3366 E-mail: press@rohmtheatrekkyoto.jp

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」を会場に、今年も秋の賑わいを創出します。
今年初めての実施となるローム・スクエアライブ～オープンコールステージ～や 毎年おなじみの岡崎
地域のみなさんを中心としたローム・スクエアライブ、ちっちゃい焚き火(薪ストーブ)を囲んで語らう会
を行います。

プログラム & スケジュール



屋外広場の空間設計について

やすんだり、あそんだり、じゆうにすごそう ローム・スクエア

期間中、ローム・スクエアには色とりどり、大中小のベンチが出現。パフォーマンスを見るための客席になったり、ひとやすみするための腰かけや机、こども達にとっては遊具になる? など、訪れた人やシーンによって過ごし方が広がる仕掛けが施されます。毎週末が楽しみになるイベントと一緒に、何度でも遊びにきてください。

空間設計: REUNION STUDIO(木村慎弥、安川雄基、石田知弘、埴田ななみ)

木村慎弥と安川雄基の共同主宰によって 2022 年に設立した建築設計事務所。建築の設計や現場での施工からコミュニティデザインまで、ハード/ソフトを問わず、都市と建築に関するさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。現在のメンバーは木村慎弥、安川雄基、石田知弘、埴田ななみの 4 名。

OKAZAKI PARK STAGE 2024 企画詳細

ローム・スクエアライブ



Photo: Toshiaki Nakatani

岡崎地域のみなさんを中心とした多彩なステージ！
こどもからシニアまで、みなさんのハレ舞台です。

日程：2024年9月29日(日)、10月5日(土)

両日 13:00-16:30

※雨天時はピロティで開催。荒天時は中止。

料金：無料・申込不要

9月29日(日)

※出演時間は決定次第 WEB ページでお知らせします。

Boleros y mariachi (メキシコ音楽)

角井正博(中国楽器フルス)

ワールドミュージックフェスタ mini [黒坂和太鼓教室(日本和太鼓)、三味線三昧(日本三味線)、
森川浩恵(日本お箏)、チャムチュリー(北タイ音楽と舞踊)、アルンシー(イサーン(東北タイ)音楽)]

10月5日(土)

13:00~14:00 ドラムサークル Kyo 響 Beat(打楽器)

14:15~14:30 あおい苑(ミュージックベル)

14:45~15:00 岡崎幼稚園(和太鼓)

15:15~16:00 錦林児童館(竹馬・ダンス)+京都文教中学高等学校ダンス(ストリートダンス)

16:15~16:30 岡崎中学校吹奏楽部(吹奏楽)

協力：京都市岡崎いきいき市民活動センター

ローム・スクエアライブ ～オープンコールステージ～

オープンコール(公募)で選出された8団体がローム・スクエアに登場します。

暑さも和らぎ、過ごしやすくなった京都の秋。新進気鋭のアーティストによるパフォーマンスにご期待ください。

日程:10月14日(月・祝)、10月19日(土) 両日 13:00～16:00

※雨天時はピロティで開催。荒天中止の場合の振替日は10月20日(日)

タイムテーブル

10月14日(月・祝)
13:00～ <u>兎玉北斗</u> 「Wound and Ground (OKAZAKI ver.)」
13:50～ <u>Super D</u> 「FORMAT/BASE/UNIFORM」
14:40～ Japanese guitar(閑喜弦介、渥美幸裕)
15:30～ <u>チープパーク(伊藤きく代)</u> 「チープ・パーク」
10月19日(土)
13:00～ <u>たんぼぼの家アートセンターHANA</u> ひるのダンス 「針の穴を通る駱駝のカラダ ～こんなところであうなんて!～」
13:45～ <u>保井岳太+ワタナベモモコ</u> 「1年後出会うかもしれないひとに出会うためのパフォーマンス」
14:30～ <u>グランバレーダンス</u> 「Count Up and Down ローム・スクエア ver.」
15:30～ <u>YuUkiKATAYAMA×Sakai Toshiaki</u> 「Sensuous-耳-」



Photo: Hanabi Takemiya

児玉北斗

「Wound and Ground (OKAZAKI ver.)」

10月14日(月・祝) 13:00～

「われわれは一体なんの上立ち、どんな時代へ向かっているのか!？」
地面を押しつづけるムーブメントから、「不可能性」の先を探求するダンス・パフォーマンス。阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件という日本社会を地盤から揺るがす出来事から約30年後の今、わたしたちが立つ地面とその深部を、身体表現によってえぐりだす。

メンバー: 黒田健太・小松菜々子・藤田彩佳・増川建太・益田さち(出演)、武田真彦(音楽)、竹宮華美(スタッフ)、児玉北斗(振付)

児玉北斗 / Hokuto Kodama

2001年より2019年までダンサーとして北米や欧州で活動し、ヨーテポリオペラ・ダンスカンパニーなどに所属。マッツ・エックら国際的に著名な振付家の作品にて主要なパートを務める。2018年にはストックホルム芸術大学修士課程(振付)を修了し、近年は振付作品として『Trace(s)』(2017)、『Pure Core』(2020)、『Wound and Ground(β ver.)』(2022)を発表。2021年からは芸術文化観光専門職大学の専任講師として、ダンスや振付をめぐる教育にも取り組んでいる。



Photo: Keita Kitagawa

Super D

「FORMAT/BASE/UNIFORM」

10月14日(月・祝) 13:50～

「多様性」から立ち戻って考える、「ひととおなじ」はわるいことかという問い。例えば「歩く」という行為は、おおよその人間が共通してできる行為である。「歩く」を中心に「誰もが行う動き」を探求したパフォーマンス作品。 演出・振付: 後藤禎稀 出演: 新井海緒、宇津木千穂、高橋夏那、張子宜、長野里音、浪江二衣奈、波多野円香、Betchy、森脇祥太、役者でない、渡辺明日香、ふくいさほ

Super D

京都を拠点に活動している後藤禎稀主宰のダンスカンパニー。2016年に個人ユニットとして立ち上げ創作を開始。2019年ダンスカンパニーとして再始動。2020年初の作品『受胎』を上演。2021年『comfort』、2022年『楽園』、2023年『静かの海』など、自主公演を中心に作品を発表。

後藤禎稀 / Yoshiki Goto

振付家、ダンサー、Super D 主宰。2014年京都造形芸術大学に入学。2016年 Super D を立ち上げ創作を開始。現在まで全ての作品の振付を務める。またダンサーとして、ルイス・ガレー、倉田翠、はなもとゆか×マツキモエ、Monochrome Circus、小倉笑、山下残の作品に出演。



Japanese guitar(閑喜弦介、渥美幸裕)

10月14日(月・祝) 14:40～

2本のギターが織りなす邦楽の新しい世界。日本の伝統である邦楽を再解釈して作曲した曲を、即興を交えて演奏します。ギターを通じて、世界中のひとびとに邦楽にふれてもらう機会を生みだします。

Japanese guitar(閑喜弦介、渥美幸裕)

／Japanese guitar(Gensuke Kanki、Yukihiro Atsumi)

日本独自の音楽である邦楽を現代の楽器、様式に沿って再解釈し、演奏するという試みの一環で、ギタリスト、作曲家の渥美幸裕と同じくギタリスト閑喜弦介によるギターという世界中で親しまれている楽器を使って、邦楽の新しい表現方法を提示するプロジェクト。



チープパーク(伊藤きく代)

「チープ・パーク」

10月14日(月・祝) 15:30～

居場所や交流を生む、ライブインスタレーション。

スポンジやチューブ、廃材などチープな素材で作ったオブジェを配置し、絵画表現としてローム・スクエアの場所と関わります。

チープパーク(伊藤きく代)／Cheap Park (Kikuyo Ito)

2024年 京都市立芸術大学大学院・油画専攻修了。京都市立芸術大学 非常勤講師。屋外の場所や風景に四角形を見つけ、簡易的な造形かつ正面性があるオブジェクトを配置したインスタレーション『チープ・パーク』を制作している。図像を配置する行為「コンポジション」を軸に、身近でチープな素材を使用しながら「絵画性と空間・場所との関わり」をテーマに、他者と社会に開かれた絵画のあり方を研究している。



撮影：草本利枝

たんぽぽの家アートセンターHANA ひるのダンス

「針の穴を通る駱駝のカラダ ～こんなところであうなんて！～」

10月19日(土) 13:00～

ジャワ舞踊の哲学や身体技法をベースに、他者や環境との呼応から生み出すダンス。儀式や祭りをヒントに、パフォーマーをはじめとした様々な人々がかかわり、毎回、イカダで川下りをするように展開しながら生まれていきます。ローム・スクエアに合わせた新作作品です。

出演：佐久間新、水田篤紀、山口広子、仲川葵、松村賢二、松田陽子、永富太郎、他

たんぽぽの家アートセンターHANA ひるのダンス

／Tanpopo-no-ye Art center HANA Hiru no Dance

2011年からたんぽぽの家アートセンターHANAで行っているダンスワークショップ。ジャワ舞踊家の佐久間新がファシリテートしている。毎回90分の即興と、同じ時間をかけた振り返りをスタッフとメンバー、時には外部の研究者やアーティストを交えて行ってきた。その様子は冊子「ダンスが生まれる回路研究プロジェクト」にまとめられている。メンバーたちのダンスの美しさやかけがえのなさを追求したラディカルな即興ダンスパフォーマンスを各地で行い衝撃を与え続けている。様々な障害のある人とどんな表現ができるのかを、ジャワの芸能を換骨奪胎しつつ実践している。



photo: Nao Matsushita

保井岳太 + ワタナベモモコ

「1年後出会うかもしれないひとに出会うためのパフォーマンス」

10月19日(土) 13:45～

ローム・スクエアに2人のパフォーマーがただ存在し続ける。自分の身体・領域・時間が観客にどのような影響を与えているのか、どのような影響を受けているのか。身体・領域・時間が浮かびあがってくる個人的なパフォーマンスから見えてくる「観客」という身体とは。

保井岳太／Gakuta Yasui

2002年生まれ。京都を拠点に活動。敷地理、SuperD、SMILEなどの作品に出演。山奥や、大学内で「景色の中に置かれた身体」をリサーチ中。

ワタナベモモコ／Momoko Watanabe

二十歳の春、ダンスを始める。出演に、はな×マツ、Monochrome Circus、SuperDなど。ごく最近は、見ている人がいてもいなくても、そこに風景はあり続けるのかを主題にパフォーマンスに取り組む。



Photo: Shinichiro Nakashima

グランバレードダンス

「Count Up and Down ローム・スクエア ver.」

10月19日(土) 14:30～

現代音楽テリー・ライリーの『inC』に触発され生みだされる有機的なダンス。楽曲の方法論をダンスに置き換え、6名のダンサーが即興を交えながら繰り広げます。計算した構成では生まれえない、ずれたり、揃ったり、増えたり、減ったり、有機的な自然の運動から生じる奇跡を描きます。出演：斉藤綾子、高瀬瑤子、藤田彩佳、益田さち、桂阿子、中尾優里、大谷悠

大谷悠 / Haru Otani

モダンダンス、クラシックバレエ、ジャズ、タップなどを渡りながら幼少より踊る。拠点を京都へ移すとともに寺田みさこに師事。ポストモダンダンスに傾倒し、とりわけトリシャ・ブラウンに触発されたオリジナル振付作品を断続的に発表する。ダンサーとして近年では、夏目美和子、振子びじんなどの作品に出演する。桜美林大学卒業、京都造形芸術大学大学院修士課程修了。京都市の青少年育成事業『ダンススタディーズ1』のナビゲーターを6年務める。精神科デイケアおいけにてダンスプログラム担当講師。Space bubu 管理人。東京生まれ育ち、京都在住。



YuUkiKATAYAMA × Sakai Toshiaki

「Sensuous-耳-」

10月19日(土) 15:30～

サウンドアーティスト×茶人！茶道の所作から生まれる音を、サウンドアーティストが、音叉やギター、ガムテープを使ったアンビエント音とあわせて、ステージに茶室を生みだします。フィールド録音した環境音や身体パフォーマンスからなる音をミックスして編みだされる即興的な音楽と、茶道の点前が交りあう唯一無二のパフォーマンス。

出演：YuUkiKATAYAMA(サウンドアーティスト)、Sakai Toshiaki(茶人)

YuUkiKATAYAMA × Sakai Toshiaki

京都のサウンドアーティスト。YuUkiKATAYAMA氏と茶人で美術家のSakai Toshiaki氏によるユニット。「Water/Space」(2024)、「石に音を宿す」(2021)、「SEI」(2020)等、実験と称した展示やイベントを行う。今回のテーマは「Sensuous-耳-」。茶を点てる際に出る音、ギターやDNAを回復させると言われる528Hzの音叉、ガムテープのビリビリ音とともに音の茶室を作り出します。異業種から生まれる美意識が交わり繰り広げられるパフォーマンスを展開する。

ちっちゃい焚き火(薪ストーブ)を囲んで語らう会



Photo: Toshiaki Nakatani

ちっちゃい焚き火がつくるちっちゃい共有地

全国各地でカフェや迎え火などのプロジェクトをアートとして実践するアーティストの小山田徹氏監修のもと、ローム・スクエアでちいさな焚き火の場をつくります。原始的な「火」を囲みながら、ゆるやかに過ごすことによって、肩書や身分、所属が問われず、誰もが自律的かつゆるやかに集える場を創出します。

この企画は2021年度に開催した、アーティストの小山田徹さんと、食農思想史研究者の藤原辰史さんの対談【[「いま」を考えるトークシリーズ Vol.17「縁食」のススmerゆるやかに集うコミュニティの可能性](#)】をきっかけに立ち上げたもので、今年で3回目の実施となります。

日程：2024年10月6日(日)、10月19日(土)、10月20日(日)、10月26日(土)
各日 18:00～20:30 ※10月27日(日)予備日

定員：約80名(焚き火12か所程度)

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

関連トークイベント「京都の未来の共有地をかんがえよう」

公園や広場を開かれた場にするための取組事例を通じて、共有地のあり方を考えます。

講師：葉山和則(京都市都市経営戦略室 戦略マネジメント課長)

日程：10月19日(土)15:00～16:00 過ぎ

会場：ロームシアター京都 パークプラザ3階ロビー

料金：無料・申込不要



小山田 徹 Toru Koyamada

アーティスト。1961年鹿児島に生まれる。京都市立芸術大学日本画科卒業。84年、大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。ダムタイプの活動と平行して90年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」などの企画をおこなうほか、コミュニティカフェである「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加。京都市芸術大学教授。

小山田 徹からのメッセージ

焚き火という営みは、世界最小で最古の共有空間です。人間には、遺伝子レベルで火の前でのふるまいが組み込まれているのではないのでしょうか。コミュニティでの縁が切れてしまいつつある現代、焚き火を通じて、いま一度それを獲得する時間が必要だと思っています。

[コラム「焚き火について」はこちら](#)

小山田 徹インタビュー(みんなのミシマガジン掲載)

「縁食と共有地を探す旅」Vol.1 ちっちゃい焚き火で「共有」の感覚をとりもどす 小山田 徹さんインタビュー
前編は[こちら](#)

後編は[こちら](#)

ボランティアスタッフ「火守」募集!

実施にあたり、この小さな共有空間の中心となる「火」を管理し、場をともに作りあげるサポートを務めていただくボランティアスタッフ「火守」を募集します。

詳細は[こちら](#) (応募締め切り: 9月8日(日))

協力: 岡崎自治連合会、藤田龍平(京都市京セラ美術館ラーニング担当)、藤原辰史(京都大学人文科学研究所)、南寛、みんなのミシマガジン編集部(株式会社ミシマ社)

関連企画

ニューイ・ブランシュ KYOTO 2024

ローレン・トルティル Lauren Tortil

「Please Listen to This」

日程：2024年9月28日(土) 17:30～、9月29日(日) 11:30～

※集合は開演30分前 ※要予約 | <https://nuitblanche.jp/>

1979年のソニーの初代ウォークマン発売に着想を得た、屋外での参加型サウンド・パフォーマンス。

主催：京都市、関西日仏学館



KYOTO EXPERIMENT 2024 ミーティングポイント

日程：2024年10月5日(土)～10月27日(日)

期間中の土・日・祝 各日 13:00-18:00

KYOTO EXPERIMENT は、世界各地の舞台芸術を紹介する国際舞台芸術祭。

フェスティバルと観客の交流拠点 & インフォメーションセンターをオープン！

<https://kyoto-ex.jp/>

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)]

